

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	ぐるーぷほーむ かやのみ 朝日の家	評価実施年月日	平成21年9月5日～平成21年9月7日
評価実施構成員氏名	朝日管理者 高山 光江 介護員 浮中 明美		
記録者氏名	高山 光江	記録年月日	平成21年9月10日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>かやのみ独自の運営理念を基本とし、全職員周知のうえ運営理念に近づけるように安全で楽しみのある暮らしを送れるよう日々支援している。</p>		
<p>○理念の共有と日々の取組み</p> <p>2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>事務所に運営理念を貼り、いつでも確認できるようにしており、常に念頭において取り組んでいる。</p>		
<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	<p>家族に対しては契約時に十分説明し理解を得ている。地域へは積極的に行事に参加したり、地域住民を招待した行事を行うことで広く理解してもらえるように努力している。</p>		
2. 地域との支えあい			
<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>散歩等の外出時での挨拶や声をかけてくれたりと微笑ましい光景が見られている。また近隣幼稚園、保育所、児童達の訪問などの交流もあり、楽しみの一つとなっている。</p>		
<p>○地域とのつきあい</p> <p>5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>昨年は町内会班長を行い、地域行事にも積極的に参加した。又毎年映画会や夏祭りなどを開催し地域との交流を大切にしている。</p>		
<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>毎年行う映画会に老人クラブを招待し、普段目にする事のない娯楽を提供している。又かやのみ夏祭りを開催し、地域の方々に楽しんで頂くことで活性化になればと取り組んでいる。</p>	○	<p>今後も映画祭や夏祭りを継続していく。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p> <p>新人職員にも必ず自己評価を行ってもらい施設として何を行うことが重要か考える機会を作るとともに外部評価の結果を通じて今後の施設運営に結び付けている。</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p> <p>運営会議の開催を計画的に開催し、運営状況、サービス提供の実態などの報告をしている。地域の方々、委員の方々の意見などをいただきサービスに生かせるよう努めている。</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p> <p>運営内容や業務関係情報または各種研修に置いて担当者との交流機会多く協力的である。積極的に協力してくれておりサービスの向上に役立っている。施設として問題に直面した際や判断に困るような場合には町と相談し、より良い方向にしていけるように積極的に連絡を取り合っている。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p> <p>個人的に叔父が成年後見制度を利用しており、ある程度理解しているつもりであるが、研修会などには参加した事はない。</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p> <p>虐待防止委員会を作り、運営指導時に制度について理解を深めている。</p>		
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p> <p>契約時には十分な説明を行い、入居後も不安の無い様にその都度相談に応じるよう対応している。退所時にも改善点や退所後の相談に乗る等している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	目安箱を設け、来所時に相談に乗る等して入居者や家族の意見を聴取し、施設として改善に反映させている。		
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	変化のあった場合には、すぐ電話連絡をとり、それ以外には毎月だしているかやのみ通信により入居者の現況を家族に伝えている。金銭管理も小遣い帳のコピーを毎月送付している。		
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	目安箱を設け、来所時に相談に乗る等して家族の意見を聴取し、施設として改善に反映させている。		
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	全体ミーティングや申し送りの際などに話し合いを行っている。	○	ロッカーの移動設置、衛生面管理、加湿器の設置、日光浴のための椅子の作成など。
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	行事の時に職員を多く配置するなどその都度柔軟な勤務体制をとれるように日々努力している。		
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	ユニット毎の完結を原則としているが必要に応じて、全職員で入居者全員に対応していく事で入居者の不安を増幅させることなく支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	積極的に資格取得に取り組むために、勤務時間などにも配慮している。		
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	毎月行われるケア会議に参加したり、施設見学を積極的に受け入れる事で他の施設の情報を収集し、良い点については取り入れるなどの取り組みを行っている。		
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	個別面談や相談を常日頃から受け入れる体制を作っている。		
22 ○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	それぞれの職員が自分の個性を持って支援することが出来たり、進んで学習意欲を持ち、楽しんで勤務できるように勤務体制の工夫をし、向上に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 ○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	ご家族からの相談を受け親身な傾聴と説明を行いご理解を頂き、見学には出来る限りご本人同行し納得されて入居することを勧めている。その際は事前にご本人の聞き取りを行い状況に応じた説明を行うとともに、対応の観察を行っている。入居に対して不安感を持っていることもあり、しっかりと傾聴する事で安心感を持ってもらえるように対応している。		
24 ○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	電話や紹介については施設の内容から本人の状況など、ご家族への説明を行っている。施設の見学や生活の内容などを理解していただき、納得された上で入居が可能かどうか話し合い選択してもらうようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	初期の相談に対しては、現在の状況把握とご家族の意向を見極め、利用可能か否かの対応を行っている。		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居前には生活内容や雰囲気、状況を再確認していただき、入居後には環境に馴染めることが出来るまで本人のペースに合わせた配慮を行っている。状況によりご家族との連絡を密に相談している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	本人の出来ない所を支援するようしており、時間をかけて一緒に過ごしながら本人の出来る事を見極めていく事で関係を構築している。		
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	本人や家族の生活背景をもとに本人へのアプローチを考え、家族と共に施設での生活を楽しめるように支援している。		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	本人の状況を家族に報告し、時に相談する事で家族の意見も取り入れる等の支援をしている。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	家族の要請があれば、外出先への送迎や家族の施設来所時の送迎などを対応する事で関係の継続に一役かっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	自ら話をしたり交流をすることは少なく、職員が気遣う事で交流できる場面が多い。常に利用者の様子観察し、言動などに気を配りお互い良い関係を保てるよう支援している。又食事の席を話し好きな入居者の隣にするなどして、入居者の輪にすんなり入れるように支援している。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	長期入院により退去となった場合でも、ご家族の都合により必要と判断された時は面会や洗濯を行い、状況を家族に電話連絡などを続け良好な関係の継続に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人を交えたケアプラン作りを行い、本人が今何をしたいのか、どう暮らして行きたいかと言う思いを把握し、又意思伝達が困難な場合には、ご家族の意向を踏まえて本人によりよい生活をおくれるように支援している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時に情報収集を行っているが、本人やご家族等から情報を聞いたり、日常の会話の中から情報を集め生活環境等の把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	本人も交えたケアプラン作りをもとに、居室での過ごし方や趣味、趣向に配慮した生活を送れるように支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	ケアプラン作成時には、本人に参加してもらうとともに、入居時に家族より聞きえた情報をもとに原案を作成している。出来るだけ本人を交えた定期的なカンファレンスを行い現状の確認とケアについて意見を出し合いよりよい計画作成となるようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	介護計画は6ヶ月を基本としているが、短期目標においても、介護度の変化、身体状況の変化に合わせたカンファレンスを行い随時見直しをする事で現状に即したプランとしている。		
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	ケアプランは全職員が見やすいように個別ケース記録に入れてあり、いつでも確認出来る状態を目指して作っている。さらに毎朝のミーティングでは記録に基づきカンファレンスが行われ共有される事でケアの実践に活かされている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	ホームの機能は利用者に対する充足を第一として考えている。同時に出来る限り家族や地域への開放と時々に応じた柔軟な支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	運営委員会や地域の方々、子供達や学生の教育機関、趣味やカラオケサークルの方々など様々な多くの方々の協力を得ている。毎年定期的に来所してくれていることで入居者も楽しみにされている。		
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	今の所、他の事業所のサービスを受ける希望は無く、施設負担も考えられ実施していない。施設の移動に関しては、他の事業所やケアマネと相談し移動の支援を行っている。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	現在具体的な協働の事例はないが、地域包括支援センターとは常に連携をとっており必要に応じ協働に向けた体制はできている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	地域の医療機関3箇所を協力医療機関と指定し、協力体制を取っている。日常の健康管理は看護師が主治医と連携を取り合うことで適切に行われている。又、状態変化やご家族の希望、他科への受診の必要な時は適切に受診出来る様に支援している。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	地域の医療機関の医師を主治医としているが、理解あり良好な関係を築いている。場合によっては、家族を交えたり職員のみでの相談も行っている。		
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	看護職員を確保しており、日常の健康管理や医療活用を連携又は相談しながら支援を行っている。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	利用者が入院した場合には、安心して治療できるように面会や様態把握を行い、家族や医師、関係者と相談し、早期退院に向けての連携を取っている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	体調変化の兆しが現れてきた時には、体調観察と病院との連携を取りながらご家族の意向確認を行い、主治医、家族と相談しスタッフで共有し取り組んでいる。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	重度の入居者が日々安心して暮らしていけるよう医師に相談し、指導助言を受けている。スタッフが共有する事でより良い生活の実現に取り組んでいる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49	<p>○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	入居者が他の施設に入所した場合は、家族と連携し、ぐるーがほ一むでの生活状況やその他必要な情報について担当のケアマネや相談員に情報提供し、住み替えがスムーズに行えるように努めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	一人ひとりの個性に合わせてさりげない支援、プライドを大切にした尊厳のある対応を行うよう徹底している。ケース記録は、入居者の前において席を立たないなど最低限のマナーを全職員で理解し、慣行している。		
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	入居者一人ひとりの状態に合わせてしっかりと傾聴したり、上手く表出できない方へは表情やしぐさなどゆっくりと接し理解する事で自己決定出来る様に支援している。		
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	日々の暮らしは一人ひとりのペースに合わせる事を優先している。散歩や買い物に出かけたり、掃除、洗濯等を希望に沿って支援するようにしている。	○	要望を聞き、後日対応する。職員が代行するなどしている。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	パーマやカットなど入居者に合わせて、美容院か理髪店かなど利用者と一緒に決めている。体調が悪く行くことが困難な場合には訪問理容も対応してもらっている。		
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	食事の下準備や、若い職員が入居者におかずの作り方を教わるなど入居者と一緒を楽しんで食事の準備に取り組んでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	医師の指示がある以外は、個々の趣向品を摂取できるように支援している。		
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	トイレでの排泄を基本とし、トイレに行ける限りはトイレでの排泄を目指している。個々の排泄パターンを把握し、随時トイレに誘導する事でパット汚染を抑える努力はしている。		
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	火曜日と金曜日の午後からと入浴日を設定している。順番や時間帯など少しでも希望に添えるように配慮しながら支援している。	○	曜日を問わず、好きな時に入れるように勤務体制を整備するようになりたい。
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	居室やホール、食堂など自由に休む事のできるスペースが十分確保されている。夜間眠られないときや、起きていられない時や起きて来られる時には、話を聞いたり温かい飲み物を勧めたり安心感の持てる対応をして眠られるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	それぞれの個性を生かした役割を分担しており、畑の草むしりや食事の下準備など、その時々に応じて個々の力を発揮できるように支援している。細かい手芸等の作業は好まらず、おしゃべりをしながら行える簡単な生活内の作業を好み楽しそうに行われている。天気の良い日はドライブや散歩に出かける事で気分転換になっている。		
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	金銭トラブル防止の為、普段は事務所で一括管理しているが、買い物などにかけた際は、入居者に支払いしてもらうなど支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	職員とマンツーマンで外出し、近所の散歩や商店に買い物に行くなど支援している。		
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	かやのみ主催の映画会や桜の季節には花見、お祭りの見学、花火大会を見に行くなどし、町内や近隣町村に買い物等に出掛けるなど積極的に外出支援している。		
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	居室に電話を設置している入居者もあり、気兼ねなく電話できるようになっている。それ以外の入居者に対しても、事務所ですぐに対応するようにしている。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	いつでも、気軽に来所してもらえるようにご家族だけでなく知人、友人、昔なじみの方の訪問がある。明るい雰囲気作りをし、場所を提供しゆっくり過ごす事が出来る様に工夫している。		
(4) 安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束の禁止法令、禁止対象の具体的な内容を話し合う機会もあり、職員は理解しており、身体・言葉・薬などの抑制を行わないケアに取り組んでいる。		
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中は、職員が多く配置されているので玄関に鍵をかける事はない。玄関にセンサーが付いており出入りするとチャイムが鳴る様になっており、所在確認や見守りを注意している。夕方から早朝にかけては防犯の為玄関のみ施錠している。各居室は入居者自身が施錠する事があっても職員が施錠する事はない。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	日中は、施設内を自由に生活している。夜間は、居室のドアにセンサーがついており、トイレに起きたのが分かるようになっており、随時見守りしている。又定時巡回の他に個々の状況に応じてトイレ誘導や見守りを行っている。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	洗剤や消毒薬などは、鍵をかけて入居者の目に触れないところに保管している。貴重品については、出来るだけ家族に持ち帰って頂き、どうしても手元に置きたい場合のみ、施設の金庫に保管している。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	転倒は、ベットに手すりをつけるなどして個別にリスク軽減に努めている。窒息は各テーブルに職員を配置し、食事時の見守り、声掛けを行っている。誤薬も個人別の薬ケースを使用し、日頃から全職員で気をつけている。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	常に体調の変化や異常の観察は行っている。急変や事故発生対応の緊急マニュアルは作成し学習を行っているが、実際に遭遇した場合すべての職員が適切に対応できることは難しい。	○	確実に出来るように実践学習を行い訓練していきたい。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	毎年2回(春と秋)は避難訓練を行い、消防や警察と連携している。今年施設内全部にスプリンクラーを設置している。		
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	看護師とケアマネが中心となり、投薬や検査に対するリスクを事前に家族に電話や来所時に説明し、同意を得た上で受診に結びつけている。出来るだけ威圧感を感じさせない話し合いとし、事故防止の対策に取り組んでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>○体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p> <p>毎朝の申し送りの際に、勤務者全員で意思統一を図り、その日が勤務でない職員にも申し送りノートに書き込み、全職員が意思統一するようにしている。管理者、看護師不在の時でも電話連絡出来る体制になっている。</p>		
74	<p>○服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p> <p>薬の安全管理を認識しており、一人ひとりの持病を把握し、服用する内容や副作用についても把握出来る様に個人ケース記録に処方箋を挟んであり、いつでも薬の内容、副作用を確認できるようにしている。正しく服用できるように情報を共有し、体調に異変がある時は看護師に報告し、医師と相談している。</p>		
75	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p> <p>便秘が原因で体調や行動に影響をきたす場合がある事を理解している。薬ばかりに頼る事無く、食事内容や運動を行えるように働きかけている。特に水分は適量飲めるように支援を行っている。</p>		
76	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p> <p>毎食後、自力困難な方は一部介助や確認を行い、消毒も支援している。</p>		
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p> <p>入居時に必ず食べ物の趣向を確認し、必要量と制限量をふまえて摂取量の確認を行っている。場合によっては補食を用意したり、栄養補助にも配慮している。飲水量も必要量確保できるように個々に合わせた好みの飲料水を用意している。</p>		
78	<p>○感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p> <p>感染予防のマニュアルがある。玄関に手指用消毒液を設置し、面会者にも消毒を行ってもらっている。又日常的に予防策として、施設内の除菌、手洗い、うがいの勧行を行っている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>○食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>毎日調理器具のアルコール消毒を行い、物品の除菌、台所の清掃を行い衛生管理に努めている。食材の鮮度に配慮した衛生管理に努めている。</p>		
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p> <p>(1)居心地のよい環境づくり</p>				
80	<p>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>入居者が利用する玄関には、階段とスロープが設置されており、脇に花壇を作り花を咲かせ外に出て眺める楽しみの庭となり、冬にはイルミネーションを飾り入居者だけで無く、近隣住民の目を楽しませている。</p>		
81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>空調などは随時調整し、快適に過ごされるようにしている。季節ごとの花や飾りつけを行い、季節感溢れる空間となっている。</p>		
82	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>ホールにはいくつかのソファが置いてあり思い思いの場所でくつろぎ過ごされている。又各ユニットごとにリビングがあり、入居者同士で、自由に使えるようになっている。</p>		
83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>入居時には使い慣れた馴染みの物の持参の説明により、使い慣れた物を沢山持ち込まれている方もいる。馴染みの物がある事で自分の居場所と認識し安心感を持たれたり、中には仏壇を持ち込まれ毎朝お経を唱えられている方もいる。</p>		
84	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>季節ごとや日々の天候に応じて随時行っている。特に冬場は乾燥することから加湿器による湿度管理も行っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>建物内部はバリアフリーであり、歩行器、車椅子使用の方もゆったりと歩行できるスペースがあり、一般トイレにも手すりが設置されている。可能な限り自立し安全に過ごせるように工夫されている。</p>	
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>居室が分からなくなる入居者は、居室に目印や名前をつけるなどしている。</p>	
87	<p>○建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>花壇や畑作りを行い。天気の良い日にはベランダで日光浴やベンチを用意し茶話会やバーベキューなどで楽しんでいる。</p>	

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない ①
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない ②
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない ①
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない ①
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない ③
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない ①
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない ①
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	①ほぼ全ての家族 ②家族の2/3くらい ③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない ①

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
96	<p>通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている</p> <p>①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない</p> <p>②</p>
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない</p> <p>①</p>
98	<p>職員は、生き生きと働けている</p> <p>①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p> <p>③</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p> <p>②</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p> <p>②</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)